

1 津山市重点取組

津山市立北小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	①学方向上担当者 ②担任 ③教務 ④放課後学習担当者	①基礎基本を徹底するためのプリント ②基礎基本の徹底と、苦手分野に重点を置いた授業改善 ③学テの解きなおし・問題文への書き込み・解説 ④個別の指導に重点を置き、習熟度別のグループでの学習	①年間を通して ②年間を通して ③11月の再テストまで ④年間を通して	①算数を中心に、朝昼校後くすのきタイムまでの隙間時間を使って、2周取り組む。採点后速却の際に誤答分析を行い、個別の指導に生かす。 ②校内研修ともリンクさせながら、話し合い活動を書くことにつなげ、人の意見を聞いたうえで自分の意見をまとめる力をつける。 ③週末課題とし、大問を基盤で1問ずつプリントにする。担任には、問題の書き込みの見本、解答を明記する。併せて、本校の正答率、県・全国の正答率、無答率も掲載し、指導の一助とする。週明けには必ず解説を行う。自力での取り組みが難しい児童には、問題への書きこみ見本などを渡す。 ④時短変更を行い、放課後30分の補充学習を行う。各クラス3割程度を個別指導都市、残り7割については習熟度別の指導とする。	①正答率 90%以上 ②話し合い活動を経て、発表・記述による自分の意見の表明ができる児童を80% ③提出率100%と再テストでの正答率80%以上
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	①担任 ②生徒指導・担任 ③教務・生徒指導 ④児童会担当	①ライトアップシート ②個別の指導、啓発 ③小中連携、ノーメディアの取り組み ④あいさつ運動	①各学期に1回 ②必要に応じて(毎月) ③中学校の定期テストに合わせて ④毎日、年間を通して	①家庭学習への取り組み、スマホ・メディア時間、自主学習の内容などをアンケートをもとに把握し、指導の必要な児童・家庭を把握する。 ②①で把握した児童本人・家庭に対し、個別に指導を行う。必要であれば、定期的な教育相談を行い、サポートを行う。 ③ノーメディア習慣を設け、児童へチェックシートに記入させる。 ④毎朝、校門でのあいさつ運動を行う。見本となる児童や通学路を星の校内放送で紹介したり、掲示黑板に書きだし、意欲の向上を図る。	①アンケートの提出率100% ②、③スマホ・メディア時間3時間以上の児童0% ④あいさつ運動のときだけでなく、いつでもどこでも、誰にでも気持ちのよい挨拶ができる。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 間違えたりわからないときに、わかるまで教えてもらっていると感じている児童が95.2%(県92.8% 全国91.8%)前年度83.4%より11.8%上昇 平日の読書時間が 30分以上と回答した児童が40%で県、全国と同等 話し合い活動で自分の考えを広げたり、深めたりできていると感じている児童が、78.6%で県、全国を上回っている。 授業の内容をよくわかると答えている児童は、国語85.7%、算数90.5%(どちらも県、全国を若干上回っている)	【学習状況調査の結果】 平日の1日あたりの家庭学習時間は、1時間以上取り組んでいる児童が8割。県、全国と比べて低い。(昨年度は73.8%) 授業内容がよくわかると回答している児童が多いにもかかわらず、正答率は低い。
成果	課題
国語 設問によっては無答率の高いものもあるが、最後まで問題を解こうという姿勢が見られる。 領域、観点別にみると、おおむね書くことについては県と同等レベルに達している。 同じく、読むことについて、県よりは低くなっているが、本校の中では6割5分から8割強の児童が正答できている。 算数 観点別にみると、知識・理解が県の平均と同等。	国語 全国、県と比較すると漢字の正答率が極めて低い。誤答分析では同音異義語の使い分けができていないことがわかる。 書くことに関して、「相手の意図をとらえながら」さらに「自分の考えをまとめる」ことがかなり難しい。この問題では無答率も高く、問題の意図をとらえることにも難しさがあったと考えられる。 算数 正答率の低い課題となる設問のどちらも数学的な考え方が問われている。 4(1)では問題に取り組んでいても、筋道を立てて考えきれず、誤答となっている児童の割合が高い。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
国語 A 同音異義語・対義語・ローマ字表記などへの取り組み(正しい読書力、伝統的な日本語の学びを確かなものにするために) B MIMを活用した、読みの力をつけるためのプリント(読みの流暢性を上げ、問題の意図を正しく捉えるために) C 放課後補充学習(下位の3割の児童に、学力をつけるために) D 作文指導(書く力をより付けていくために)	A~D 秋チェックまでに、継続的に取り組む。その後も継続する	A 秋チェックでの正答率80%以上	A プリントを配布し、隙間時間や家庭学習で取り組ませる。 B 6月に集計したデータをもとに、3rdステージに該当する児童へMIMプリントやことばのワークに取り組ませる。1st、2ndステージの児童には問題作りをさせる。 C 週に1回時短変更を行い、放課後30分学習時間を確保する。下位の3割の児童に対し個別指導を行い、残りの児童には習熟度に合わせた教材や自主学習へ取り組ませる。 D 毎週、視写、接続詞を使った文づくり(2文を1文に、1文を2文になど)受験に合わせた作文、字数制限のある作文に取り組ませる。					
算数 A 基礎問題2問 B 学テ解きなおし・問題用紙への書き込み・解説 C 放課後補充学習	A~C 秋チェックまでに、継続的に取り組む。その後も継続する	A 整数、小数、分数の加減乗除が正しくできるまで B 無答0 問題用紙への白紙もなしになるまで C 個別に応じた目標に到達するまで	A 朝全員に配布し、できた人から提出。答え合わせを行い翌日返却。誤答分析を個別指導に生かす。 B 週末課題とし、よく月曜日(もしくは火曜日)に解説する自力解決の難しい児童には問題文に書き込みをした解答を渡し、問題文への書き込みも含め写させる。 C 週に1回時短変更を行い、放課後30分学習時間を確保する。 D お手本となる良いノートの掲示・達成率に合わせた表彰・見本の配布・学年別の見本集作成 B・ライトアップシートや日々の提出状況を把握し、内容を含めた個別指導を行う。					
家庭学習の定着と充実 A 自主学習の充実 B 宿題提出の徹底	年間を通して	A それぞれの課題に応じた内容の自主学習を行えるまで B 全員期日を守って提出できるまで						

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
・小中合同研修会の開催 ・ノーメディアへの取り組み	・家庭学習の充実を図るために...学習環境を整える、スマホ・メディア時間の削減(保護者自身も) ・放課後学習への参加 ・登下校時の見守り、声掛けなど